

67年前のヒロシマが重なる

蝉しぐれの中、今年も広島・長崎で平和記念式典をはじめ原水禁世界大会が開かれた。今年は、町民全員が避難を余儀なくされている福島県浪江町の町長が広島の式典に参列した。「震災後の町の様子と、67年前の広島が重なる。」「原発事故で多くの町民が被ばくし、平穏な生活が一瞬にして奪われた。原爆であらゆるものを奪われた広島の無念さを受け継げれば」との思いで参列したと…。

一方、広島市長の平和宣言では「前向きに生きようとする被災者の皆さんの姿は67年前のあの日を経験したヒロシマの人々と重なります。」と述べていた。

今日8月11日は、震災から1年5ヶ月目を数えた。「悲しい過去を変えることはできないけれど、わたしたちは未来を作るための夢と希望を持つことができます」と広島の子ども代表の「平和への誓い」で述べているように、被災地の人々が明日への夢と希望がもてるようになる日を一日も早くにと…願い祈るばかりです。

北京でもニュージーランドでも

7月下旬から8月上旬に、本校では海外研修が行われました。20名の中学2年から高校3年の生徒が、北京で開催された第2回インターナショナルスチューデントサマーキャンプに参加しました。24カ国600名の学生と教師の他、北京教育関係者やボランティア学生を前で苦勞と緊張を乗り越えて立派にスピーチしました。東日本大震災被災地応援実行委員会の委員長佐藤さんは英語で。広報担当飯田さんは中国語で！また参加者全員が「英文説明付き支援お箸」を各国の友人にプレゼントしました。

一方、立命館コース3年生23名は、ニュージーランド研修でお世話になったホームステイ先のご家庭や、バディに「支援お箸」をお土産として渡しました。

北京で世界の友人へあてたスピーチ全文 日本語版

私たちの国日本は、昨年2011年3月11日に1000年に1度と言われる大地震に襲われ、大津波で一瞬にして人も町も失われました。その上原子力発電所が破壊され周辺住民は町から避難を余儀なくされています。皆さんも知っているように日本は世界で唯一の被爆国です。そして、今回チェルノブイリ・スリーマイル島の原発事故に続いての福島原発事故です。私たちはあの3月11日から人類にとって何が大切な。幸福とは何かを考えるようになりました。そして人の優しさや温かさが絶望の淵から生きる勇気を与える事も知りました。

今回の災害では世界中の国・人々から多くの支援を頂きました。いつの日か復興できる日を信じて頑張ることをお伝えし、お礼のことばを贈ります。「ありがとうございました。」

たくさんのお礼状が届いています！
扇風機50台、オリジナルCD50枚とCDラジカセ50台と、実行委員の立入さんの保護者からご提供いただいた女物浴衣・帯・下駄20セットを、今回も株式会社カシックス様のご厚意により気仙沼へお届けできました。そのお礼状を一部裏面でご紹介します。そのお礼状を一部裏面でご紹介します。

裏面にお礼状掲載しています

今日、東北地方が梅雨明け宣言されました。
その3日前の月曜日にみはさんからの支援物資が届きました。

みはさんからの支援物資が届くのを待っていたかのような梅雨明けです。
先きの3指導者も一年経った今、被災地に何か必要なのか
考えて下さったのです。みはさんが製作して下さいましたCDも
聞かせて頂きました。私ももうでコーラスしている中で、CDに聞いて
の練習や収録の苦勞、お察し頂きます。東北へと思う気持ちが
はたでできり事ですね。思いついたCDは、私の縁故のオウに
みはさんへ送りました。一年以上も経った今、震災報道も少なくなり、普通
通りで忘れられたかな。こちらでも、大津のいじめ問題が、連日大きく
とり上げられて、中、同年代のみな様が、こころを被災地に住んでい
る人にも向けて下さっている事、大変感謝しております。
こちら、同封した新聞記事の通り、迷いの状態で復興への
道はまだまだです。そんな中、住民は、自分の事は、自分で考え、できる事

扇風機はこれからの暑い部屋に涼風を送ってくれるでしょう。助かります。
ラジカセは81歳になる義母がとても喜んでおります。そういえば私はクルマを運転しながら
CDを聴くことができますが、義母には音楽を聴く道具が無かったのです。CDもいただ
いたので一緒に聴きました。どれも心洗われるような演奏で、特にピアノでの童謡演奏は義
母が嬉しそうに一緒に歌を口ずさんでいました。

そして娘たちには浴衣のプレゼント！長女は大学1年、次女は高校2年生です。

昨年は毎年行われていた気仙沼みなとまつりが震災の影響で中止になりました。今年は2
年ぶりに開催されます。この浴衣を着て見に行けたらどんなに嬉しいことでしょう。生活
必需品ではないけれど、こんなふうに生活に潤いを与えてくれるものも私たちには救いだ
と思います。

先日、気仙沼在住の吉村様より、いろいろもった
物資を頂きました。幸いにも我家は被害の少な
い地域でしたので、仮設住宅に住んでいる友人
にお渡ししました。とても喜んで下さり有難く思
います。今回の震災で失くした物は大きかったですが
人の心の優しさと温かさにふれ、毎日過ごしている
うちに遠く京都の皆さんにも助けを頂き、毎日が
平和に生きる事の大切さを感じています。頂いた
CDもハンドベルやコーラス、琴...とバリエーションが
豊富で、震災後はふとした時、泣きながら歌を口ずさ
むのを覚えたのだと思います。本当にありがとうございます。
機会があれば是非被災地でもごらん
下さい。

拝啓 この度は心温まる歌声、ラジカセ、扇風機を下され
本当にありがとうございました。家族で大切に使用させて
頂きます。震災で一変した街並みと共に生活をしていると
どうしてもエネルギーを消耗してしまします。しかし、皆様が
「忘れてないよ」というお気持ちで私達のエネルギー源で
被災地の心情を慮って、視察や旅行を遠慮される方
いると伺っています。しかし、現地では現状をご覧いただき
ことで、皆様と共有したい想いもあります。
どうぞ、いつでも気仙沼へ足をお運び下さい。敬具
いよりお待ちしております。

この度は、冬に引き続き

また素晴らしい支援を頂き
本当にありがとうございます。

暑い夏も元気に過ごして事ができ
嬉しいです。

CDも聞かせて頂きました。
皆様の被災地の私達を想って
くださっている気持ちが伝わってきて
胸がいっぱいになりました。

若いカッテ素晴らしいですね。
私もCDを聞いて、そのパワーを
少しづつもらいたければ、がんばって
いこうと思います。

と静かにやそい、誰に頼るわけにもいかないと歩き出しています。
だから、このCDは心に響いたと思います。CDを聞いて頂くために
カセット、暑さでも思い扇風機も、この三点をセットにして、お渡し
しました。みはさん喜んで受け取り下さり、「お父さん出た学校は、度々あり
ます。晴らしいと口々に話して下さいます。みはさんから頂いた支援物資
は、おかげです。気仙沼市民にお渡ししました。この支援物資も、
我家まで配達して下さいました。配達人に一セット上げました。この方
は、気仙沼に住んでいる方です。お年は、60代後半で、お一人で、みはさん
の支援物資を暑中、寒中、お持ち下さり下さったのです。作業中、
気仙沼の方で、親族も震災で亡くされ、まだ家も流された親族がいら
し、と聞かれました。これほど、縁を感じて、渡しました。
それと、去年は、皆様の避難所で、お会いして頂いた、及川様にも一セット
お渡ししました。
浴衣は、沿岸部に住居がある方、女子のいらっしゃるご家族の方
に、我家に来て頂き、見てもらいました。コーラスのメンバーの方です。

一年前に「あのね、娘がね、友達の家遊びに行かせてもらった。
でも、帰ってきたら泣くのよ。私には家がいって、私は隣で聞いて
何い言えませんでした。一年経った今、その友達が家に呼び、自分の
お姉さんの、お友達の方として、両手いっぱい、涙を流して、お姉さん
に、8月11日と、こちらでは、港まわりの、開催されます。
多分、この浴衣が活躍するだろうと思います。
浴衣もあり、おかげです。私には、息子一人、お姉さん、冬、
女の子の華やかなり、空気を感ずりました。私には、姉が、昔、こねた
衣装、遊びに楽しんだ事、思い出、元気に生きてもらえましたよ。
気仙沼高校の、昨年度、一部発刊された、会報を同封します。
P6ページに、同世代の目からみた、東日本大震災を感じて頂ければと
思いました。

暑さ厳しい時期、みは様のご健康を祈ります。

ありがとうございます。

平成二十四年七月二十六日